

令和6年度

中学校ブロック毎 ジョイントプラン

概要



宇治市教育の日シンボルキャラクター：ハチャ君

- | | |
|--------------|---------------------|
| 1 宇治中学校ブロック | 6 南宇治中学校ブロック |
| 2 北宇治中学校ブロック | 7 広野中学校ブロック |
| 3 槇島中学校ブロック | 8 東宇治中学校ブロック |
| 4 西小倉中学校ブロック | 9 木幡中学校ブロック |
| 5 西宇治中学校ブロック | 10 黄檗中学校ブロック（施設一体型） |

令和6年4月

宇治市教育委員会

	宇治中学校ブロック	北宇治中学校ブロック
小中一貫 教育目標	ふるさと宇治を愛し、みらいを展望し、たくましく生きる児童生徒の育成 めざす児童生徒像 アともに学び、考える児童生徒 イたくましく生きる児童生徒 ウ笑顔を大切にする児童生徒	「学力の向上を目指し、多角的に小中の連携を進める」 (めざす子ども像) ・自ら考え、自発的に表現できる子(知) ・人と地域とのつながりの中で豊かな心を育て、他を大切にする子(徳) ・運動に親しむことにより、楽しく生活できる子(体)
本年度の 目標・推 進の方向 性	【目標】 学力(国語力)向上のための、学級経営と授業の改善 【推進の概要】 ・アンケートの分析を通して、児童への関わり方や配慮の仕方などを改善し、よりよい学級づくりを目指す。 ・研修を通して、多様な児童への関わり方を学び、よりよい学級経営や授業づくりにつなげる。 ・ICTを児童の学習活動で効果的に活用することで、主体的に学び考える力や多様な人とつながる力を育成する。	【目標】 ・学力の向上を目指し、多角的に小中の連携を進める。 ・小中一貫の視点から、日々の授業技術の向上や学力定着のための具体的方策を探り実践。 ・学力充実部を中心に小中一貫教育を推進する組織力を向上。 ・保護者や地域住民などに、積極的に小中一貫教育の取組や成果等を発信。 【推進の概要】 ・小中一貫に向けた企画会議の定期的な開催や計画した取組を確実に行うことを通じて、小中学校の教員の連携とこれによるブロックとしての学力の向上を図る。 ・小中一貫教育推進のための組織を構築する。 ・「小中一貫教育だより」等の通信を学期1回程度定期的に発行し、また学校HP掲載等を通じて保護者や地域住民などに、小中一貫教育の取組や成果等をさらに周知徹底していく。
	具体的な取組	具体的な取組
9年間を見 通した子 どもの育 ちと学び のつなが り	全教員が小グループに分かれて、研究授業を通して学級経営を踏まえた授業改善について協議し、実践に活かすことで児童生徒の学力向上につなげる。 定期的に児童生徒アンケートを実施することで取組を検証し、その結果をもとに改善につながるような学習活動を設定していく。	・全国学力・学習状況調査や京都府学力・学習状況調査などによる分析を通じて、児童・生徒の学力分析を行う。 ・各校の交流の中で、家庭学習の定着に向けた方策を模索していく。 ・小中一貫教育目標や各校の研究テーマ等に沿った授業改善等の実践交流を行う。 ・タブレットなどのICT機器等を活用した学習実践の交流を行い、積極的に生かしていく中で「学力の向上」につなげていく。 ・特支・教相対象児童、生徒に対する有効な方策やアプローチ方法を示していく。 ・小中それぞれの児童、生徒の実態交流をより細かく行い、連携を図っていく。 ・生指面の課題のある児童・生徒や不登校児童・生徒に対する有効な方策やアプローチ方法を模索していく。 ・小中それぞれの児童、生徒の実態交流をより細かく行い、連携を図っていく。
連続性 のある子 ども理解 と生徒指導	ブロック校長会、教頭会、コーディネーター会議、児童理解部において児童生徒の実態や課題、強み等を交流し、共通した視点で生徒指導・支援を行う。 人権学習の授業参観、事後研究会を通して、同和問題をはじめとする様々な人権問題について正しく理解するとともに、教職員一人一人の人権意識を向上させる。	・各校の授業参観を通じて、学校や児童・生徒の実態についての理解を深める。 ・全国学力・学習状況調査等の結果を活用し、学力実態の分析を行い、その結果をもとに「学力向上」につなげていく。 ・地域ボランティア活動、児童会・生徒会活動や交流を通して小中連携、小中連携をすすめる。 ・小学6年生を対象にした半日入学の取組を実施する。
指導や支 援に磨き がかかる 教職員の 連携と協 働	コーディネーターが中心となり、その内容、意義、効果等について協議しながら、児童生徒交流取組(クラブ見学・体験授業等)を実施する。 合同研修会を通じて、3校の教職員が、ブロックの課題を明確化し、共通した視点で教育活動を進めているよう連携、協働を進める。	・各校の実態や実践の交流を中心に連携を行い、その成果を生かし、小中一貫教育における「学力の向上」につなげていく。 ・コーディネーター会議等を必要に応じて開き、調整する。 ・ICT機器などの活用も検討しながら、小中一貫教育の推進を模索していく。
家庭・学 校・地域 でつくる 育ちの輪	小中一貫教育校だより(FUTT)や学校だより、ホームページ等を積極的に活用し、取組を啓発していく。 各校のコミュニティ・スクール制度を活用し、学校と地域が一体となって小中一貫教育に取り組む。 義務教育9年間を見通して、家庭教育の充実を図る。	・保護者向け小中一貫教育ニュースを学期に1回程度発行し、活動内容を保護者・地域に紹介していく。 ・学校HPの活用等を行い、ブロック内の小中一貫教育の取組の情報発信を適切に行う。 ・家庭学習の時間を定着させることで学力の向上を図る。 ・デジタルドリルを活用(配信)し、自学自習を促し、適切な評価につなげるなどのことを行い、家庭学習定着に向けた方策を模索していく。

	榎島中学校ブロック	西小倉中学校ブロック
小中一貫教育目標	「豊かな人間性と未来を創造する子どもの育成」 めざす子ども像 心身共に健康で、明るく活動する子 意欲的に学び、深く考え、豊かに表現する子 地域でつながり、共に支え合い、高め合う子	We are the Leaders 自ら学び 考える人 他者と対話し つながる人 しなやかに 行動する人
本年度の目標・推進の方向性	【目標】 「インクルーシブ教育と言語活動の充実に取り組み「読み取る力」「書き表す力」の向上を目指す」 【推進の概要】 榎島中ブロック全体で児童・生徒の学力向上における様々な課題解決を図るため、各校の実践交流や協議を通して授業改善を行い、学力向上を図るとともにインクルーシブ教育の充実と国語の力の向上に努める。	【目標】 互いに尊重し合い、主体的に行動し、未来を切り拓く児童生徒の育成 【推進の概要】 ・コーチング、ファシリテーションの視点を持ち、児童生徒自身の学びを促す授業を展開する。 ・支援を要する児童生徒の「個別最適な学び」を実現する。 ・観点ごとの評価規準に照らして、適切な観点別評価基準の設定と改善を行った上で、指導と評価の一体化を図る。
	具体的な取組	具体的な取組
9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながり	・学力分析部会を通して、児童・生徒の課題を把握し、課題克服に向けての方向性や取組について協議するとともに、児童・生徒の定着を把握し、効果的だった指導方法を確認し、課題克服の方策と有効な指導方法についてブロックで共有を図り、やましろ授業スタンダードを参考にして授業改善に繋げる。 ・国語部会を中心に、「効果のある宇治市方式を進めるアクションプラン」を推進していく。 ・中学進学への不安を解消し、中学校生活への見通しを持つために、中学校での授業体験と部活動体験を行う。 ・中学校ブロックの児童生徒の代表絵画作品を3校および地域にも巡回展示する。 ・ブロックの小中学校の生徒会・児童会を中心に、ユニクロの古着回収の活動を行う。 ・ブロックの生徒会・児童会を中心に、各校で回収した未利用木材を万博で使用するエコベンチを作成する活動を行う。	・学力分析の充実。各校の京都府学力調査や全国学力調査から学力の実態を把握、分析・共有する。 ・指導方針の共有・確立。主体的に取り組む子どもの育成に向けて実践を共有し、指導方針を確立する。
連続性のある子ども理解と生徒指導	・生徒指導や特別支援教育における児童・生徒理解を深め、小中接続をスムーズにするために情報交流や協議を行う。 ・小中接続をスムーズにさせるため、中学校所属のラーニングコーディネーターが各小学校で、中学入学前の心得や準備等について授業を行う。 ・各校の授業参観を通して、児童・生徒理解を深め、小中連携をスムーズに行う。 ・外部講師を招いて、児童・生徒理解、授業改善や各校の課題解決に繋がる内容についての研修を行う。	・通信の連携を進める。中学校の生徒指導通信を小学校に共有する。 ・中学校準備講座の実施。中学校入学への不安軽減を図るため、LCが小学校を訪問し、出前講座を実施する。 ・生徒指導交流会の実施。各校の生徒指導部長による事象報告や実態や指導内容の共有化を図る。
指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働	・榎島中ブロックの取組や目指す方向性などの確認や、各部会等の取組の報告等を行う。 ・学力分析部会、国語部会、ICT推進部会、特別支援教育部会、生徒指導部会、特別活動部会に分かれ、小中一貫教育の視点でそれぞれのグループにおける授業改善や取組の改善に向けて協議や、各校の情報交流を行う。 ・インクルーシブ教育推進部会を中心に、研修を通してブロックで共通した方向性でインクルーシブ教育の推進を図る。	・小中合同研修会の充実。小中一貫校開校に向けて、ワーキンググループに分かれて取組内容や方針等の整理を行う。
家庭・学校・地域でつくる育ちの輪	・教職員広報を発行し、小中一貫教育推進に関わる情報を発信し、小中学校の教職員の共通理解を図りながら、取組を推進する。 ・小中一貫教育便り「マキシマム」の継続発行(保護者配布・地域回覧)やHPへの掲載、各校の広報誌での小中一貫教育目標やめざす子ども像、取組等の広報や校内掲示等を行い、小中一貫教育に向けた取組や研究を積極的に情報発信する。 ・学校・地域行事で、児童生徒が共に活動したり、交流したりする場面や小中一貫教育の成果を発揮する場面を設定する。	・地域、保護者への啓発活動の充実。様々な取組を「小中一貫だより」のプリント配付やHP等で発信する。

	西宇治中学校ブロック	南宇治中学校ブロック
小中一貫教育目標	N・I・S目標 「自立への学びと社会性の育成を推進し心豊かでたくましい人間を育てる」目指す児童・生徒像 知 展望する力 ・深く考え、よく聴き、意欲的に表現する子 徳 つながる力 ・温かい心で助け合う子・節度をもった礼儀ある子・違いを認め合える子 体 挑戦する力 ・ねばり強く諦めない子・基本的な生活習慣や健康を配慮できる子	○ブロック小中一貫教育目標 「夢や希望を持ち、未来をたくましく生きぬく児童生徒の育成」 ○めざす子ども像 「夢や希望を持ち、未来をたくましく生きぬく子ども」
本年度の目標・推進の方向性	【目標】 「自立への学びと社会性の育成を推進し心豊かでたくましい人間を育てる」 【推進の概要】 (1)「効果のある宇治市方式を進めるアクションプラン」に基づいた合同研修会及び各教科部会の充実と発展、公開授業研究会の実施 (2)領域部会機能の活性化 (3)小小連携の充実（中学校進学に向け、共通組織による実態改善） (4)相互連携授業の充実	【目標】 「主体的に学び、活動できる児童生徒の育成～三校のつながりを深める取組を進める～」 【推進の概要】 【まなび部】主体的に学習に向かう児童生徒の育成 ・宇治市アクションプランを踏まえた、読む力、書く力の育成方法の検討 ・手帳を活用した自己調整力の育成と家庭学習の在り方についての検討 ・ICT機器利活用についての実践交流、および、協議 ・「学びのパスポート」経年比較分析 【つながり部】児童生徒教師の繋がりを生かした小中連携 ・児童会生徒会の交流、合同企画による取組の実践 ・授業、特別活動における小中、小小の児童生徒間交流 【りかい部】個別の支援の在り方 ・支援を必要とする児童生徒の実態交流、および、支援方法の検討、実践協力 ・3校の連携強化に向けた協議
	具体的な取組	具体的な取組
9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながり	①年間3回の3校合同の研修会を持ち、領域や教科ごとの交流を行う中で、授業に関する指導方法について研修を行ったり、生徒指導や特別支援に関する交流を行ったりする。 ②小中学校9年間に及ぶ児童生徒の教育活動に見通しを持った学習指導の方法を研修するとともに、その成果を共有し協働に活かすことができるよう、資料・データの整理（＝「見える化」）に努める。 ③小中学校共に、「学習の手引き」をどのように活用すればよいのか検討する。	【まなび部】の設置と運営 ・非認知能力についての理解向上と学びのパスポート（府学力学習状況調査）の分析を行う。 ・課題解決型学習をめざした宇治学の在り方について交流を図る。
連続性のある子ども理解と生徒指導	①児童の小中格差に関わる不安を取り払い、スムーズに中学校生活へ移行できるよう支援する。 ②毎学期、小中学校合同で取り組み、児童会・生徒会相互の交流を深める。 ③各取組の担当者は、相互に取組の意義や実践に関する詳細について打ち合わせを行うことで取組の形骸化を避け、有効な取組としての維持継続を図る。	【りかい部】の設置と運営 ・児童生徒の交流を深める取組を計画、実施する。 ・授業や特別活動での小中、小小の児童生徒間での交流を積極的に行う。 ・地域や保護者との連携を推進する取組を計画、実施する。 ・生徒指導面での共通理解を図る。
指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働	①広報紙発行の取組を継続するとともに、小中一貫教育啓発掲示板の有効活用、各校学校だよりのブロック内交流、各校HP上を工夫し、広く地域に発信し理解と支援を求める。 ②各地域行事、夏休みの「地域パトロール」、西宇治オープンフェスタ、中学校オープンスクール等々への積極的な参加を通して、地域との連携を図り支援や協働を得る。	【全体会・三部会】の開催 ・3校に共通する課題を見つけ、全体会や夏季研修会、三部会の中で研修・協議を進める。
家庭・学校・地域でつくる育ちの輪	①ブロック校長会をはじめ各会議を適宜開催し内容の充実を図るとともに、推進計画が円滑に遂行されるよう、各会及び各部との交流、連携に努める。（特に、実務に直結するコーディネーター会議は月例開催を目処とし、全体の調整と活性化にあたる。） ②小中連携の諸行事における準備の手順や役割担当等を明確にし、協働体制を構築する。	【つながり部】の設置と運営 ・支援を必要とする児童生徒の情報共有、および、支援体制の協議、協力実践などを行う。

	広野中学校ブロック	東宇治中学校ブロック
小中一貫教育目標	<教育目標> 夢や希望を持って未来を切り拓ける児童生徒の育成 <9年間で育てたい力（めざす児童生徒像）> 自ら学び考える力 豊かな人間関係を築ける力 健やかな体で粘り強くやり抜く力 自分の生き方を求めていく力	教育目標 「命を輝かす人間」 めざす児童・生徒像 「自ら学び学習する児童・生徒」 「思いやりのある児童・生徒」 「たくましく生きる児童・生徒」 「健康や安全を考える児童・生徒」
本年度の目標・推進の方向性	【目標】 ・「学びの意欲を高める」（非認知能力を高める） 【推進の概要】 ・非認知能力の視点をより明確にし、能力の育成を視野に入れた学習環境づくりを各校の目標や実態に合わせて実践する。 ・基礎学力定着のための補充学習を継続する。 ・実践内容と結果をブロックで交流・協議し、学園全体としての意識向上につなげる。	【目標】 これまでの小中連携・小中一貫教育の成果と課題を踏まえた取組を推進しながら、小中一貫教育の基本である「義務教育9年間で、生きて働く学力や生きる力を身に付けさせるための系統的・統一的な指導を実現する」という視点で、日々の指導の充実を図りながら、取組の点検・評価・改善を図る。 【推進の概要】 本ブロックの児童生徒の実態や教育の方向性・動向を踏まえた取組の工夫・改善を積極的に進める。その取組の一つとして、宇治市の「効果のある宇治市方式を進めるアクションプラン」の指標について、ブロックとしての分析を行い、本ブロック児童生徒の課題である「ことばの力」「主体的な学習態度」「対話的な深い学び」の充実と関連させた具体的な取組を推進する。 また、非認知能力と認知能力の一体的な育成・向上に向けた授業研究を進める。
	具体的な取組	具体的な取組
9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながり	・学園児童生徒の学力充実を目指し、学力部会（大開小学校担当）を中心とした組織的な活動の実施 ・6年生を対象にした春休みの宿題や、「家庭学習の手引き」など、共通課題の作成 ・よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す「宇治学」の充実 ・3校の重点研修会を案内し合い、校内で研修内容を紹介し実践力を高める。	「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を積極的に進め、その中に、ことばの力を高める視点を加え、日常の授業や家庭学習、小中一貫教育の様々な取組と関連させ、生きて働く学力や生きる力を高めるための指導の充実・向上を図る。また、非認知能力と認知能力の一体的な育成・向上に向けた授業研究を進める。
連続性のある子ども理解と生徒指導	・3校の生徒指導の交流（8月・10月・1月）（問題事象の交流や傾向の分析など） ・少年補導地域懇談会での状況交流 ・HOT-MEETING（3校合同児童生徒会）の実施 ・福島ひまわりプロジェクトの実施 ・小6の中学校体験学習や外国語活動（オンライン）での小中交流事業 ・中学1年生による小学校1年生への紙芝居読み聞かせ ・中学校部活動体験の実施 ・小学校職場体験学習での中学生による中学校紹介	学力面だけでなく、生徒指導部会、特別支援・教育相談部会を設定し、学校ごとの取組や児童の様子を交流するとともに、中学校へスムーズな接続ができるように一致した取組を進める。
指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働	・宇治ひろの学園総会の実施による小中一貫教育の取組周知 ・夏季合同研修の実施 ・大久保小と大開小の小中連携の計画及び実施（授業研の交流と授業での交流） ・他校種研修での受け入れ（初任者）	相互授業参観や合同研究授業を通して、教職員の連携と協働を進め、指導力を高める。 ブロックの小中学校の職員写真を職員室内に掲示することで、連携・協働を進めやすくする。
家庭・学校・地域でつくる育ちの輪	・HOP（宇治ひろの学園小中一貫教育だより）の保護者への配付 ・各校の学校だよりでの紹介やホームページの活用 ・3校巡回作品展示の保護者向け公開 ・小6の中学校体験学習の保護者参観	小中一貫教育だよりを発行したり、各校の学校便り等で小中一貫教育の取組を紹介したりして、積極的に情報発信を行う。 ブロック共通の「家庭学習の手引き」の活用を進めながら、児童生徒の実態に応じた家庭学習習慣・生活習慣を高める取組を進める。

	木幡中学校ブロック	黄檗中ブロック
小中一貫教育目標	故郷（ふるさと）で夢や希望をはぐくみ、未来を切り拓く児童・生徒 めざす子ども像 ①意欲を持ち、学び続ける児童・生徒（知） ②思いやりにあふれ、ともに伸びる児童・生徒（徳） ③健やかな心と体をもった児童・生徒（体） ④ちがいを認め、命を大切にする児童・生徒（人権） ⑤ふるさとを愛し、つながりを大切にする児童・生徒（地域）	たくく すずしく たくましく ① 高い志を持って、学びの道を究める人(確かな学力) →自分から進んで目標を決め、実際に挑むことができる。 ② さわやかな心、優しい心を持った人(豊かな人間性・社会性) →自分から進んであいさつをすることができる。 ③ 強い志を持って、人生を切り開く人(意欲や情熱・健康な体) →諦めることなく続けることができる。
本年度の目標・推進の方向性	【目標】 ・学習指導要領（評価を含む）をふまえて、学力向上のための主体的・対話的な授業づくりに結びつく研修を木幡中ブロック全体で行い、さらに深める。・3回の小中合同研修会において、各教科部会、連絡会毎に設定した課題について研修を深める。・ICTの利活用の各校の工夫を交流し、教職員のスキルアップを目指す。 【推進の概要】 ・ラーニングコーディネーターを中心に、「やましろ授業スタンダード」や「効果のある宇治市方式を進めるアクションプラン」に基づいた学力向上のための主体的・対話的な授業づくりを木幡中ブロック全体で行う。 ・3つの連絡会と、8つの教科部会の協議、交流を通して、小中の系統的、継続的な指導を進める。 ・特別支援教育の視点を生かした研修を継続して行う。 ・小中一貫だよりやHPを通し、児童生徒、保護者、教職員、地域への啓発を進める。	【目標】 ・課題解決型学習を中心とした研究の推進 ・課題解決型学習を手段とした認知能力と非認知能力の一体的な育成(小) ・教科等横断的な課題解決型学習による論理的思考力の育成(中) 【推進の概要】 ・課題解決型学習を手段とした認知能力と非認知能力の一体的な育成の推進 ・児童生徒が意欲を持って取り組める家庭学習の実施
	具体的な取組	具体的な取組
9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながり	9年間を見通しての「ことばの力」の育成。8つの教科部会（国語、生活・社会、算数・数学、生活・理科、音楽・美術・図工・家庭・技術、保健体育、外国語・英語、道徳）の協議、交流を通して、小中の系統的、継続的な指導を進める。	課題解決型学習 ・各教科領域の学びをつなげる課題解決型学習の実施 ・児童生徒が意欲を持って取り組める家庭学習の実施
連続性のある子ども理解と生徒指導	切れ目のない生徒理解と小中が連携した生徒指導の推進。3つの連絡会（学力充実いしずえ、児童生徒理解、健康安全）を通して、小中での生徒交流を深め、切れ目のない生徒指導・支援を推進する。	・9年間の継続的な生徒指導を進めるための小中での課題の共有化
指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働	・特別支援教育をテーマとした講演を依頼。C層・D層の生徒理解や、効果的な指導や支援等についての理解を深める。 ・各校のICTの利活用の工夫の交流を行い、教職員のスキルアップを目指す。	・小中連絡会の開催、小中の現状把握、相互理解 ・表現力、データ活用能力の育成。学力分析の方法 ・「絆の作り手育成プログラム」についての研修の実施
家庭・学校・地域でつくる育ちの輪	・おもろいやんか木幡への参加 ・HPに小中一貫教育の取組を掲載し、取組の啓発を図る。 ・小中一貫だよりを通し、児童生徒や保護者への周知を図る。 ・新入生保護者説明会を11月に木幡中学校で行う。	・計画的な学校運営協議会開催による小中一貫教育の状況確認 ・ホームページ等を活用した、学園全体の取組の積極的な広報活動 ・各教科、クラブ活動等における学校ボランティアの活用